JETRO
Japan External Trade Organization

イスラエル・マンスリー・トレンド

Israel Monthly Trends

2026年10月

目次

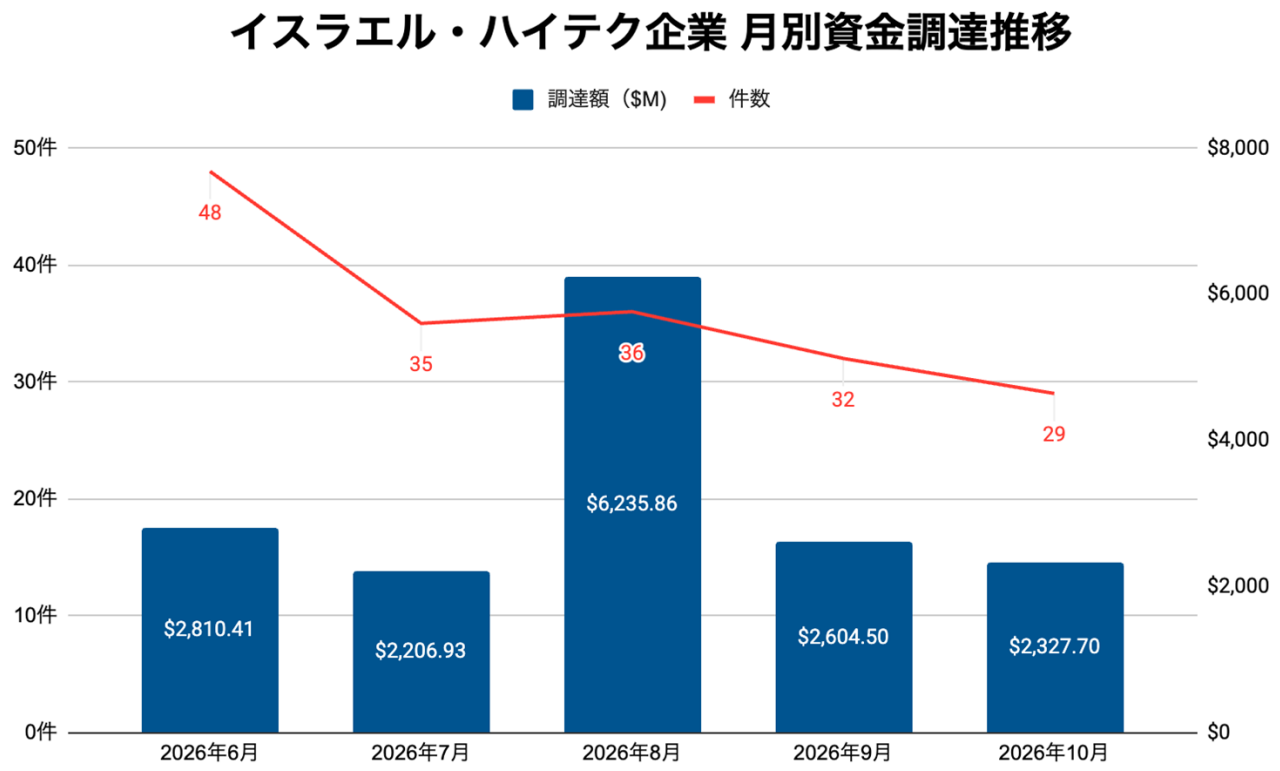
1. イスラエルの現在の状況_10月 p.2
2. 今月の注目テーマ： ウェアラブル技術と組み込み型インターフェース p.3
3. 協業事例紹介 p.4

本レポートは、「スタートアップエコシステムが発達しているイスラエルで、どのようなイノベーションが起こっているかを伝える情報提供を目的として作成されています。本レポートが日系企業の戦略策定の一助になれば幸いです。

Copyright © 1995-2026 Japan External Trade Organization (JETRO). All Rights Reserved.

1．イスラエルの現在の状況_10月

2026年9月16日から2026年10月15日におけるスタートアップの資金調達は、29件・総額23億2,770万ドルであった。前期（2026年8月16日から9月15日）の32件・総額26億450万ドルと比べ、案件数は3件（9.4%）減少し、調達総額は2億7,680万ドル（10.6%）減少した。1件当たりの平均調達額は約8,027万ドルとなり、前期の約8,139万ドルから約1.4%減少した。



出典：IVC Data（2026年10月16日アクセス）を基にJakore作成

本レポートの毎月のデータ収集期間は、前月16日から当月15日までとなる。

当該期間においては、Enterprise Software & Infrastructure分野が引き続き市場を牽引した。同分野では、Islandがシリーズ Fで4億ドル、Cyeraがシリーズ Gで4億ドルを調達したほか、Navanがデットファイナンスで2億2,500万ドル、Capitolisがシリーズ Eで1億2,000万ドル、デットファイナンスで1億ドルを確保した。また、大型案件では、Fibrotexがセカンダリートランザクションで3億5,000万ドル、Nayaxがデットファイナンスで1億5,000万ドルを調達しており、これらの案件が当該期間の資金流入を支えた。一方で、案件数および調達総額はいずれも前期を下回る結果となった。

Copyright © 1995-2026 Japan External Trade Organization (JETRO). All Rights Reserved.

2．今月の注目テーマ：ウェアラブル技術と組み込み型インターフェース

ウェアラブル技術と組み込み型インターフェースとは、身体に装着・貼付するセンサーや、体内に埋め込む電子デバイスを通じて、生体情報を継続的に取得し、外部システムとの情報交換や刺激制御を行う技術である。医療・健康管理を中心に、EEG、ECG、EMGなどの計測、神経刺激、視覚支援、リハビリ支援などへ用途が広がっている。

主要な取り組みと成果

イスラエルでは、ウェアラブル技術と組み込み型インターフェースを、バイオとエレクトロニクスを融合する「バイオコンバージェンス（Bio-convergence）」に関連する領域として位置付けている。イスラエル・イノベーション庁の支援の下、生体信号モニタリング、神経刺激、埋め込み型デバイスなど、医療機器とデジタル技術を組み合わせた研究開発が進められている。

企業レベルでは、生体信号を日常環境で取得する非侵襲型デバイスの実用化が進む。X-trodesは、柔軟で薄型の皮膚貼付型「Smart Skin」を開発し、EEG、ECG、EMGなど複数の電気生理信号を一つの電極アレイで測定できる。brain.spaceは、乾式EEGセンサーを備えたヘッドギアとAI解析基盤を組み合わせ、脳活動データの標準化と継続的な解析を進めている。OxiTone Medicalは手首装着型デバイスで血中酸素飽和度、脈拍、体温、動作データを連続取得し、FDAクリアランス取得済みの機器として在宅医療向けの遠隔モニタリングに展開している。また、brain.spaceは宇宙飛行中の脳活動計測を行い、X-trodesは日常生活や睡眠中の連続計測に用途を広げている。

組み込み型では、BlueWind Medicalが脛骨神経を刺激する小型埋め込みデバイスを開発し、体外のウェアラブルパッチから無線給電・制御するニューロモジュレーションを展開している。CorNeat Visionも、組織との長期一体化を目指す合成材料技術を眼科用インプラントに応用している。これらの事例から、イスラエルではセンサーの小型化・柔軟化に加え、生体適合材料、無線技術、AI解析などを統合し、装着負担を抑えながら継続的な生体情報の取得や神経刺激、長期使用を支える方向で開発が進んでいる。

今後の展望

今後は、ウェアラブル機器の薄型・柔軟化と、体内デバイスの小型化と長期使用への対応が並行して進むとみられる。特に、皮膚貼付型の乾式電極、フレキシブルセンサー、生体適合コーティング、封止材、ハイドロゲルなど、生体との接触面を構成する材料の重要性が高まる。研究開発基盤についても、試作から製品化を支える体制整備が進むとみられる。また、取得した生体信号をAIで解析し、健康状態や神経活動の継続把握の高度化が見込まれる。ウェアラブルとインプラントを個別の機器として扱うのではなく、センサー、通信、解析基盤、材料を一体化したシステムとして設計する動きが進み、医療機関や在宅環境でのモニタリングやリハビリ支援への展開が広がるとみられる。医療機器としての規制承認や長期耐久性の検証も、普及に向けた条件となる。生体適合性や電源供給の持続性も重要な課題は残るものの、医療機関や在宅環境における継続的なモニタリングやリハビリ支援分野での活用拡大が期待される。

出典：Israel Innovation Authority（2026年4月13日）

Copyright © 1995-2026 Japan External Trade Organization (JETRO). All Rights Reserved.

3．ウェアラブル技術と組み込み型インターフェースの協業事例紹介

●Oxitone Medical × Ascom UMS（2020年6月30日）

Oxitone MedicalはAscom UMSと連携し、手首装着型医療モニター「Oxitone 1000M」を遠隔監視システム「Digistat Wearables」に統合した。これにより、血中酸素飽和度や脈拍などの生体情報を継続的に取得し、入院不要の患者の遠隔モニタリングを支援する取り組みである。
参考：PR Newswire（2020年6月30日）

Oxitone Medical（https://www.oxitone.com/）
Oxitone Medicalは、手首装着型センサーで血中酸素飽和度や脈拍などを連続計測し、在宅や遠隔医療向けのモニタリングソリューションを提供するイスラエル企業である。

●Xtrodes × EMOTIV（2022年11月14日）

X-trodesはEMOTIVと協業し、皮膚貼付型の乾式電極パッチとEEGデータ解析プラットフォーム「EmotivPRO」を組み合わせ、研究室外で脳波データ取得と解析を支援するソリューションを提供している。
参考：PR Newswire（2022年11月14日）

X-trodes（https://xtrodes.com/）
X-trodesは、皮膚貼付型の薄型・柔軟な電極パッチを開発するイスラエル企業であり、EEG、ECG、EOG、EMGなどの生体信号を日常環境で計測するソリューションを提供している。

●Wearable Devices × Qualcomm Technologies（2024年2月12日）

Wearable DevicesはQualcomm Technologiesと協業し、ニューラル入力技術「Mudra」を「Snapdragon Spaces XR Developer Platform」に対応するよう最適化した。指や手首の微細な動きを用いたタッチレス操作をAR・VR環境へ組み込み、直感的なXR操作の実現を目指す取り組みである。
参考： Wearable Devices プレスリリース（2024年2月12日）

Wearable Devices（https://www.wearabledevices.co.il/）
Wearable Devicesは、手首に装着するセンサーを活用し、指や手首の動きを検知するニューラル入力技術「Mudra」を開発するイスラエル企業である。タッチレスでの機器操作を可能とし、XR機器やデジタルデバイス向けのインターフェース技術を提供している。

Jakore
Jakoreはイスラエルと日本をつなぐプラットフォームです。データ、AI、ブロックチェーンなどの革新的なソリューション・イネイブラーを必要とする幅広い分野の日本企業や投資家をサポートするだけでなく、イスラエルのスタートアップの日本進出をバックアップしています（UI/UX、MLのローカライズ、事業開発やカスタマーサポートの準備・強化など）。
Jakore, Inc.
Copyright © 1995-2026 Japan External Trade Organization (JETRO). All Rights Reserved.